

# 事後評価結果（令和元年度）

担当課：静岡県 交通基盤部 道路整備課

担当課長名：吉川 正剛

事業名	一般国道136号 函南三島バイパス <small>かんなんみしま</small>	事業区分	一般国道	事業主体	静岡県
起終点	自：静岡県田方郡函南町間宮 至：静岡県三島市大場			延長	2.8 km
事業概要	一般国道136号函南三島バイパスは、静岡県田方郡函南町間宮から静岡県三島市大場に至る延長2.8 kmのバイパスを整備する事業である。				
事業の目的・必要性	一般国道136号函南三島バイパスは、伊豆地域の生活・産業・観光を支えている重要な路線である。当事業は、国道136号現道における交通混雑の緩和、国土・地域ネットワークの構築、生活・観光・産業活性化への寄与を目的として整備を行うものである。				
事業概要図	<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>..... 事業中</li> <li>— 国道（現道）</li> <li>— 国道（2車線）</li> <li>— 国道（4車線）</li> <li>— 高規格幹線道路（供用中）</li> <li>--- 高規格幹線道路（事業中）</li> </ul> <p>【評価区間】 函南三島バイパス 延長2.8km</p>				

事業の 効果等	事業期間	事業化年度 : H9年度 都市計画決定 : H7年度	用地着手 : H9年度 工事着手 : H9年度	供用年 : (当初) -/H25 (暫定/完成) : (実績) -/H26	変動 : 1.06倍
	事業費	計画時 (暫定/完成) : (名目値) -/494億円 (実績値) -/235億円	実績 (暫定/完成) : (名目値) -/816億円 (実績値) -/258億円		変動 : 1.10倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成) : -/25,200台/日	実績 (暫定/完成) : -/22,708台/日		変動 : 90%
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	23.4 → 32.1 km/h (供用直前年次) H22年度 (供用後年次) H27年度		交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	179 → 144 件/億台キロ (供用直前年次) H25年 (供用後年次) H27年
	費用対効果分析結果 (再評価)	B/C : 1.5	総費用 : 506億円 事業費 : 494億円 維持管理費 : 12億円	総便益 : 742億円 走行時間短縮便益 : 679億円 走行経費減少便益 : 49億円 交通事故減少便益 : 15億円	基準年 : 平成23年
	費用対効果分析結果 (事後)	B/C : 1.2	総費用 : 832億円 事業費 : 816億円 維持管理費 : 16億円	総便益 : 995億円 走行時間短縮便益 : 909億円 走行経費減少便益 : 66億円 交通事故減少便益 : 19億円	基準年 : 令和元年
	事業遅延によるコスト増	費用増加額 : -		便益減少額 : -	
事業遅延の理由 特になし					
客観的評価指標に対応する事後評価項目					
<p>① 国道136号における交通混雑の緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顕著な渋滞が発生していた大場川南交差点では、最大4,200mあった渋滞長が240mと約9割減少した。</li> </ul> <p>② 国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東名沼津ICから伊豆市役所までの所要時間が、67分から34分と33分の短縮が図られた。</li> </ul> <p>③ 生活・観光・産業活性化への寄与</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物流センターや工業団地、青果市場等が新たに沿線に立地し、企業立地が促進されている。</li> <li>・ 沼津市岡宮地区から第3次救急医療施設である伊豆の国市の病院までの救急搬送時間が、40分から25分に15分の短縮が図られた。</li> </ul>					
その他評価すべきと判断した項目 特になし					
事業による 環境変化	環境影響評価に対応する項目 周辺道路で交通が分散し、窒素酸化物、二酸化炭素、浮遊粒子状物質の排出量削減が期待される。				
	その他評価すべきと判断した項目 特になし				

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・従前の東名高速道路に加えて、H24 に開通した新東名高速道路、H31 に開通した天城北道路により、伊豆半島へのアクセスが向上し、函南町や伊豆の国市への観光レクリエーション客数が増加傾向となっている。
- ・H27 に韮山反射炉が世界文化遺産に登録、H30 には伊豆半島ジオパークが世界ジオパークに認定された。
- ・県東部の 10 市 4 町が連携した子育て支援施策を打ち出し、東駿河湾環状道路、新東名高速道路等の整備も相まって今後の人口増加が期待される。

今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性

- ・国道 136 号の混雑が緩和され、観光レクリエーション客数の伸びや救急搬送時間の短縮等、事業効果は発現しており、今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性はない。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

特になし

特記事項

特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。